

アフリカの可能性を引き出す：民間主導の成長に向けた国際開発金融機関（MDBs）と日本の連携

開会挨拶



加藤勝信
財務大臣
内閣府特命担当大臣（金融）
デフレ脱却担当

2024 年 10 月より財務大臣、内閣府特命担当大臣（金融）、デフレ脱却担当。

厚生労働大臣、内閣官房長官などを歴任。

2003 年に衆議院議員初当選、以後岡山県選出で 8 回連続当選。

1979 年、東京大学経済学部卒。

パネリスト



林信光
株式会社国際協力銀行
代表取締役総裁

JBIC の代表取締役総裁として、融資、投資、保証といった業務を統括し、特にアジアを中心に経済発展と環境配慮型社会への移行を支援する取り組みを主導している。

東京大学卒業後、大蔵省（現・財務省）に入省し、経済政策、財政政策、国際金融等の分野において要職を歴任し、理財局長、財務総合政策研究所長を経て、国税庁長官に就任。

また、内閣総理大臣秘書官や世界銀行グループの日本代表理事も務めた。



田中明彦
国際協力機構
理事長

東京大学教養学部卒、マサチューセッツ工科大学政治学部大学院修了（Ph.D. 取得）。専門は国際政治学。東京大学東洋文化研究所教授（1998-2012、2015-2017）、東京大学副学長（2009-2012）、JICA 理事長（2012-2015）、政策研究大学院大学（GRIPS）学長（2017-2022）等を歴任。2022 年より JICA 理事長を務める（2 回目）。

主な著作

『世界システム』（東京大学出版会、1989 年）
『日中関係 1945-1990』（東京大学出版会、1991 年）
（山本吉宣と共編著）『戦争と国際システム』（東京大学出版会、1992 年）
『新しい「中世」』（日本経済新聞社、1996 年、サントリー学芸賞受賞）
『安全保障』（読売新聞社、1997 年）
『ワード・ポリティクス』（筑摩書房、2000 年、読売・吉野作造賞受賞）
『複雑性の世界』（劉草書房、2003 年）
『アジアのなかの日本』（NTT 出版、2007 年）
『ポスト・クライシスの世界』（日本経済新聞出版社、2009 年）
Japan in Asia: Post-Cold-War Diplomacy (Tokyo: Japan Publishing Industry Foundation for Culture, 2017)
『ポストモダンの「近代」』（中央公論新社、2020 年）

受賞歴

・1996 年 サントリー学芸賞受賞 『新しい「中世」』日本経済新聞社
・2001 年 読売・吉野作造賞受賞 『ワード・ポリティクス』筑摩書房
・2012 年 紫綬褒章受章



マクタール・ディオップ
国際金融公社
長官

マクタール・ディオップは、新興国・途上国の民間セクター支援を手がける最大の国際開発機関である国際金融公社（IFC）の長官として、居住可能な地球上での貧困削減と繁栄の共有促進という世界銀行グループの使命の達成に向け、2021 年 3 月 1 日の就任以来、民間セクター主導の開発を最優先事項として取り組んでいる。特に、貧困や格差、気候変動など世界規模の課題解決に向け、持続可能で包摂的な経済成長の実現に戦略的に注力。こうした目標達成のために、インフラ、デジタル経済、保健医療、再生可能エネルギーなどの重要セクターにおける投資拡大の重要視しており、特に支援が必要とされる地域への投融資に向け資本動員を促進するためにブレンド型融資の活用、リスク軽減メカニズム、官民パートナーシップなどの革新的な金融ソリューションの活用を推進している。

	ディオップ氏は金融包摂に重点を置き、女性、小規模事業、農村地域への金融サービスへのアクセス拡大を図るとともに、フィンテックとデジタルインフラへの投資を通じてデジタル変革を推進してきた。彼のリーダーシップの下、IFC は環境的に持続可能なプロジェクトへの投融資を拡大し、レジリエンスの強化と気候変動対策に取り組んでいる。 IFC 入社以前は、ディオップ氏は世界銀行のインフラ担当およびアフリカ担当副総裁を歴任し、サハラ以南アフリカにおける大規模な投融資を手掛けた。それ以前は、セネガルの経済・財政大臣として同国の経済成長を実現する構造改革の実施を主導した。また、世界で最も影響力のあるアフリカ出身の100人の一人に選出されている。ウォーリック大学とノッティンガム大学で経済学学位を取得し、カリフォルニア大学バークレー校から権威あるリージェント・レクチャーシップ・アワードを受賞。
 オディール・ルノーバソン 欧州復興開発銀行 総裁	オディール・ルノーバソンは、2020 年 11 月 2 日に欧州復興開発銀行（EBRD）の理事会により第 7 代総裁に選出され、多国間開発銀行における初の女性総裁となった。2024 年には 2 期目となる総裁職に再選されている。 EBRD での職務を開始する以前は、仏経済財政省の総局長としてフランスの経済政策を統括し、国際的な金融問題や貿易政策、金融規制、債務管理を担当。彼女は欧州経済金融委員会の副委員長、G7・G20 の仏代表代理、世界銀行、EBRD、AfDB のフランス理事/理事代理も務め、パリクラブの議長も務めた。 また、フランスの大規模な公的金融機関である預金供託公庫の副総裁を務めたほか、仏首相および欧州理事会議長の官房次長も務めた。彼女はキャリアを通じて仏経済財政省で数々の役職を歴任し、その後ブリュッセルの欧州委員会経済・金融総局では局長として勤務した。



ケビン・カリウキ
アフリカ開発銀行
副総裁（電力・エネルギー・
気候変動・グリーン成長担
当）

2020年4月よりアフリカ開発銀行の電力・エネルギー・気候・グリーン成長担当副総裁を務めている。アフリカにおけるエネルギー貧困の迅速かつ持続可能な解消、普遍的なエネルギーアクセスの実現、さらに気候変動に強い低炭素型の開発経路の推進に関する業務を統括。

彼の指導の下、同銀行の公共・民間部門のエネルギー関連ポートフォリオは、再生可能エネルギーが主流となり急速に拡大しており、現在の評価額は約100億米ドルに達している。政策面においては、エネルギー政策の改訂を監督し、石炭への新規投資を排除するとともに、気候変動およびグリーン成長に関する新たな政策・戦略の制定を推進した。この政策・戦略は、同銀行のパリ協定整合計画を支える基盤となっている。

30年以上の経験を有するチャータード・エンジニアであり、アガ・カーン経済開発基金の関連組織である Industrial Promotion Services (IPS) において、インフラ部門責任者および電力分野のグローバルリーダーを歴任。

これまでに、民間資金による20億米ドル超のインフラプロジェクトの開発を主導し、その中には、ブルンジ、コンゴ民主共和国、ルワンダを対象とする、6億5,000万米ドル・147MWのルジジIII水力発電プロジェクト、ウガンダにおける9億200万米ドル・250MWのブジャガリ水力発電プロジェクト、そして南部・東部アフリカ諸国を南アフリカ、インド、フランスの国際ブロードバンドケーブルと接続する、容量1,280Gb/s、全長17,000kmの海底光ファイバーケーブルプロジェクト（6億5,000万米ドル）が含まれる。

官民連携プログラムを含むインフラ分野における民間セクターの参画について、国際的に講演を行っており、1996年には英国電気技術者協会プレミアム・アワードを共同受賞している。

英国マンチェスター科学技術大学（University of Manchester Institute of Science and Technology）にて、電力システムの信頼性に関する博士号（Ph.D.）を取得。また、英国工学技術学会（Institution of Engineering and Technology）のフェロー会員でもある。

	1989 年大蔵省（現財務省）入省。 文書課長、大臣官房審議官（国際局担当）、国際局長などを歴任、2024 年 7 月より財務官。国際決済銀行、金融庁に証券課長・銀行一課長としての出向を経験。 東京大学法学部卒、フランス国立行政学院（ENA）国際公共行政学を修了。
---	---

三村 淳
財務省
財務官

モデレーター

	アフリカ開発銀行（AfDB）のプライベートセクター・インフラ・工業化担当副総裁。2020 年 5 月に AfDB に入行し、開発金融および投資銀行業務において 25 年以上の経験を持つ。 2018 年から 2020 年にかけて IFC を退職後、民間セクターに転身し、新興国市場における専門的なアドバイザリー業務を提供。Rothschild Global Advisory のアフリカ（南アフリカを除く）担当シニアアドバイザーを務めたほか、デンマーク開発金融機関（IFU）のサブサハラ・アフリカ担当シニアアドバイザーとして活動。さらに、3 億 5,000 万米ドル規模のアフリカプライベート・エクイティファンドにおいて、投資委員会メンバーおよびシニアアドバイザーとして参画。アフリカのインフラファンドのシニアアドバイザー、InfraCredit Nigeria および Verdant Ventures の取締役を務めた実績を持つ。 それ以前は IFC において長年勤務し、新興市場の投資スペシャリストとして、銀行やノンバンク金融機関、通信・メディア・テクノロジー、エネルギーを含むインフラ、製造業、アグリビジネス、サービス業など幅広い分野で事業開発と投資を実施。また、戦略策定、政府・規制当局との連携、民間セクターとのパートナーシップ構築を支援した経験を活かし、アフリカの様々なセクターの企業において、経営幹部の信頼できるアドバイザーとして活躍。
--	---

ソロモン・クエノー氏
アフリカ開発銀行
副総裁（プライベートセクター・インフラ・工業化担当）

	IFC 以前は、米国ウォール街の投資銀行業務に従事し、大企業および中堅企業に対しコーポレートファイナンスに関するアドバイザリーサービスを提供。ニューヨークのメリルリンチとベア・スターンズにて、ゼネラリストグループでアソシエイトプレジデント、メディア&コミュニケーショングループでバイスプレジデントを務めた。 ビジネススクール入学前は、アトランタ大学センターで数学と工学の大学教授を務めた。ノースウェスタン大学JL ケロッグ経営大学院で経営学修士（MBA）、ジョージア工科大学で電気工学修士、アトランタ大学センターから応用物理学の学士号取得。
--	--